第1回

オリエンテーション

(1) プログラム

日 時 | 5月13日(土) 13:00～16:00

会 場 | 江東区役所7階 第71～73会議室

内 容 | オリエンテーション

- ・今年度の主旨を説明しました。
- ・『心のバリアフリー』を考える』と題して、東京都の取り組みや、アドバイザーの川内さんからお話をいただきました。

タイムテーブル |

13:00 (05分) あいさつ

13:05 (20分) 今年度の進め方、これまでの取り組み

13:25 (60分) **【お話】『心のバリアフリー』を考える**

1) 東京都障害者差別解消条例・ヘルプマーク等に係る取り組み

ゲスト | 志村正彦さん (東京都障害者施策推進部共生社会推進担当課長)

2) 都における心のバリアフリーの理解促進に係る取り組み

ゲスト | 田中誠人さん (東京都生活福祉部福祉のまちづくり担当課長)

3) 「心のバリアフリー」と「共生社会」

アドバイザー 川内美彦さん

14:25 (10分) ～休憩～

14:35 (40分) **【グループワーク】**

進め方の説明

Q お話を聞いて、キーワードを出しあおう

・グループ内で自己紹介

・キーワードを付箋にメモして、模造紙に出しあい意見交換

15:15 (40分) **【発表】**(発表3分×5グループ)

【全体で意見交換】

15:55 (05分) 事務連絡、アンケート記入

16:00 終了

(2) お話『心のバリアフリー』を考える

1) 東京都障害者差別解消条例・ヘルプマーク等に係る取り組み

- ・志村さんより「東京都障害者への理解促進及び差別解消の推進に関する条例」の概要や、取り組みの一環である「広域支援相談員による相談」で対応した事例紹介、ヘルプマークの活用についての話をいただきました。

2) 都における心のバリアフリーの理解促進に係る取り組み

- ・田中さんより、まちの中で作り出される「心のバリア」にはどのような状況があるかの説明や、「心のバリアフリー」を実践するためには、1) 社会モデルの考え方を理解すること、2) コミュニケーションをとること、3) 適切な配慮を行うことが大切との話をいただきました。また、「心のバリアフリー」に関連した東京都の取り組みの紹介がありました。

3) 「心のバリアフリー」と「共生社会」

- ・アドバイザー川内さんより次の話をいただきました。

▶ 「福祉」の認知度 (アンケートより)

- ・「福祉」から連想される言葉のアンケートをとると(出典 | 「尊厳なきバリアフリー『心・やさしさ・思いやり』に意義あり!」川内美彦著)、「高齢者、障害者、介護、医療、バリアフリー」等を連想する人が多く、「権利、平等、尊厳」を連想する人は少ないです。
- ・「福祉」は英語では、「Welfare」と「Well-Being(幸せな状態であること)」の二つの言葉があります。
- ・日本で「福祉」は、国や自治体が提供する施策 = Welfare を指す場合が多く、その施策の背景として「憲法第 25 条」があります。

(1) すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。

(2) 国は、すべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

国民は幸せな生活を営む権利、国はそれを実現する施策を行う義務があります。つまり、国民は国が提供する「福祉」を受ける権利があり、「福祉」と「権利」は憲法上は強く結びついていますが、アンケート結果には出ていません。

▶ 「心のバリアフリー」の認知度 (アンケートより)

- ・「心のバリアフリー」から連想される言葉についてアンケートをとると(出典 | 前述と同居)、日本的な「ハート、やさしさ、思いやり」はよく連想されていますが、世界的な潮流である「権利、尊厳、差別」は連想されづらいという結果です。

▶ 「共生社会」と「人権・尊厳」

- ・「ユニバーサルデザイン 2020 行動計画」では、「人権や尊厳を大切」にする「共生社会」を目指すと謳っています。この実現には「心のバリアフリー」が必要だと言っています。
- ・同計画で「心のバリアフリー」とは「様々な心身の特性や考え方を持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことである。そのためには、一人一人が具体的な行動を起こし継続することが必要である」とあります。具体的な行動には「人権や尊厳」という背景が当然なければならないですが、やはりアンケート結果には出ていません。
- ・ある店に何らかの理由で入れない人がいたとします。肌の色や性別の違い、車いすを使用しているといった理由だと、自分に非がないのに不当に扱われ、差別を受けたと感じ、人間としての尊厳を傷つけられます。
- ・憲法で、個人の尊厳の保持は確約されています。「やさしさ、思いやり」は一人一人の気持ちの話で、ある人に対してどんな気持ちを持っていようが「差別」はしてはいけない。差別は「やさしさ、思いやり」とは関係がないのです。
- ・現在のまちは、多数派に使いやすいようにつくられており、少数派は使いにくいことが多くあります。他の人は使えるのに、ある特定の人には使えないことは「差別」であり「尊厳が傷つく」。バリアフリーは差別をなくすため、人の尊厳のために必要なのです。

▶ 「心のバリアフリー」とは

- ・多様性に対する意識の欠如、他者への理解が無いことが「心のバリア」であり、その障壁をなくすことにより、その人の権利と尊厳を守り不利益が生じないようにすることが「心のバリアフリー」です。「思いやり」といった情緒的な対応に期待するのではなく、しっかりと理解とそれに対する社会の体制をつくる必要があります。

(3) お話を聞いてキーワードを出しあおう (○付き数字はグループ番号)

お一人3枚、付箋にキーワードを書いてください。

・一番印象的だったキーワードの付箋に「赤シール」を貼ってください。【シール○コ】と表記。

心のバリアフリー【シール6コ】

■「心のバリアフリー」という言葉を知った

- ・「心のバリアフリー」という言葉を初めて知った。①
- ・自分の理解とは違っていた。②
- ・「心のバリアフリー」という言葉を聞いたことがなかった。初めて知った。④
- ・聞き馴染みがなかった。外国人や認知症も含まれるのかもしれない。④
- ・バリアフリーは「ハードだけではない」ということを初めて知った。④
- ・心のバリアフリーサポート企業とは何だろう？④

■「心のバリアフリー」について考えたい

- ・真の「心のバリアフリー」とはなんだろう？深く考えてこなかった。①
- ・高校には「心のバリアフリー」についての教育があるか？話を聞き高校生と考えたい。①
- ・障害があってもできること、自分が気づいていないことが多いと思った。①
- ・「心のバリアフリー」という柔らかい言葉だと、真意が伝わらなくなったと感じる。②
- ・優しい言葉だが言葉に酔ってしまう。私が若い頃は「優しさは当たり前」に育てられ、一方で困った時は遠慮なく相手に言っていた。②

■「心のバリアフリー」の理解が深まった

- ・「多様性への意識の欠如」が<心のバリア>であるということを知った。①
- ・できてしまったものを取り除くことと理解していたが、バリアフリーにするための予防の意味があることを理解した。③
- ・意味を少し理解できた。「人の尊厳を傷つける」話が出てくるとは思いもしなかった。⑤
- ・「心のバリアフリー」は、尊厳や平等の視点が大切だと知ることができた。⑤
- ・「心のバリアフリー」の話を聞き、周りをよく見て行動することが重要だと改めて感じた。⑤

■「心のバリアフリー」はわかりにくい

- ・スロープ設置などは可視化しやすい。一方で心のバリアフリーは可視化しにくい。障害も解決策もいろいろ。カテゴリー分けは理解しやすい

が、区別だと思ったことが差別を生むこともある。⑥

■具体的な行動について

- ・「心のバリアフリー」の「具体的な行動」ということを考えさせられた。⑤
- ・日常場面では相手のことがわからないので、どこまで接して良いのかわからない。⑤
- ・コロナ禍で接触を避ける中、相手に失礼かと声かけを止めてしまった。またはじめたい。②
- ・「今できること」「次にできること」「最終的にめざすこと」を整理して考えたい。⑥
- ・「尊厳」はわかるが、では実際にまちでどのような対応をしたらいいのかわからない。⑥

■障害者の気持ち

- ・障害当事者から聞いた話。最近「障害者を見つけたら声をかけて」と呼びかけているため、呼びかけられることが多い。毎日同じ道を通っているのに、ひとりで移動できるが、声をかけられた時に断ると相手のがっかりするのではないかと気を遣って誘導してもらっている。その後戻って自分のルートで移動し直すそうだ。②

■心のバリア

- ・段差だけでなく、世の中にはいろいろな障壁があると気づかされた。②
- ・「障がい者」の「がい」は、「害」ではない方がよい。言葉のイメージから害がつくと面倒な人・体に差し障りのある人という印象を相手に持たせてしまう。③

→漢字やひらがなの問題ではなく、なぜその言葉を使うかの背景・理由が大切。例えば、障「害」者と使っている、社会モデルの観点から社会の側に害があるという意味で使っていることもあり得る。③

言葉がひとり歩きしている【シール1コ】

- ・「心のバリアフリー」という言葉がひとり歩きして、本当の意味が伝わっていない。②

ヘルプマーク【シール3コ】

■ヘルプマークとは

- ・つけるかどうかはその人次第で自由。尊厳と関係するかもしれない。③
- ・サポートが必要か分からないので、それなりに意味がある。電車などで席をゆずりやすい。③

■ヘルプマークの理解

- ・アイテムとしては良いこと。①
- ・全国に広がっている（知られている）か？①
- ・理解不足が最大のバリアだと感じた。②
- ・ヘルプマークをつけている人に、どう対応したら良いのかわかりにくい。①
- ・主旨はわかりにくいと思っていたので、今後どうなっていくのか注目したい。①
- ・制度の周知や理解が必要。大事なことの真意を伝える必要がある。②
- ・視覚障害者は、白杖を持っているのでヘルプマークは使わない。②
- ・都心では見るが、ある地方ではヘルプマークを見たことがない。全国的ではないのか。③
- ・江東区では見かける。もっと広まると良い。④
- ・有名なアーティストがヘルプマークにそっくりなマークをつけたことが以前話に出ていた。⑤
- ・ヘルプマークをよく街中でみかける。⑤
- ・ヘルプマークは江東区でも渡している。気軽に広げていけると良い。⑥
- ・ヘルプマークは地下鉄でもらえる。駅員にももらった時「これをつけたからといって、特に何かがあるわけではない」と言われた。⑥

■ヘルプマークの効果

- ・ヘルプマークをつけていると（東京以外でも）席をゆずってもらうことが多い。①
- ・席を譲ったり声をかけるなどしているが、これでいいのかなと思っている。②
- ・病気で席に座りたい時、見た目は分からないので優先席を使いづらかった。ヘルプマークを使えば良かった。②

■ヘルプマークの適切な活用方法

- ・ヘルプマークを使って、席を優先させてもらおうという人がいると聞く。②
- ・無償配布で自己申告した人が使っている。サポートを必要としていない人も使っているのではないか。③

合理的配慮【シール6コ】

■初めて聞いた

- ・合理的配慮という言葉は初めて聞いた。これから理解したい。④

■具体的な対応を考えたい

- ・段差があるのが差別なら、雨水浸水防止で店入口に段差が必要な場合はどうしたら良いか。①
- ・「適正」とはどの程度なのか知りたい。①
- ・合理的配慮の不提供事例を見ると、「その場での対応」で決まったやり方がないのは難しい。②
- ・何が合理的配慮となるのかが難しいので、考える必要がある。④
- ・人対人が対応できるようになると良い。④
- ・みんなが理解するまでに時間がかかる。区窓口に行っても必要なところに繋がりにくい。④

■建設的対話が大切

- ・ちょっとした対応を工夫することでより良くなるか、いつも考えていきたい。④

■障害の社会モデル

- ・常に気を配っていることが大切。①
- ・足骨折時に普通に生活できず、治った後に生活が戻ったが、怪我中も普通に生活できることに後で気がついた。不自由なのは社会のシステムのせいだと気づいた。③

努力義務【シール1コ】

- ・権利と義務。事業者に対しての努力義務。①
- ・悪気はなくても、気がつかないこともある。①

人権、尊厳、平等【シール4コ】

■考えたことがなかった

- ・尊厳という言葉を知らなかった。その意味を初めて聞いた。今日知り、大切なキーワード。③
- ・「尊厳」と「バリアフリー」がリンクされていなかった。尊厳は最低限守られるべきもの。③
- ・心のバリアフリーとは、尊厳や権利を守ることだと知って、重く感じた。生活を便利にするものといった、少し軽いものだと思っていた。⑥
- ・「尊厳や権利」の話聞いて、最初はびっくりして、次に「あーそうなんだ」と納得した。⑥

■「人権、尊厳」は、社会生活に必要なもの

- ・共生社会は、人権尊厳を大切にすること。①
- ・尊厳は人を尊重すること、権利や尊厳を守って

いくこと。思いやりは気持ちの問題。気持ちだけではなく尊厳を持って行動することが大切。これまでできていなかった。③

- ・尊厳は、人との関わりあいの中で出てくる言葉。共生社会では尊厳を持つことが必要。③
- ・尊厳とは、プライドを尊重すること。③
- ・尊厳は法律の基になる考え方だと感じた。④
- ・バリアフリーは人の尊厳のために必要。④
- ・やさしさや思いやりではなく、尊厳や平等から考えるということ。これまで考えたことがなかった。⑤

■「平等」について考えた

- ・「全ての人がそこそこ平等」と聞いて、UDの着地点が見えた気がした。②
- ・みんなが少しずつ不自由になったとしても、平等な社会が良いという考え方を知った。④
- ・心のバリアフリーで平等になると良い。④

■差別

- ・差別解消が必要。差別される側は疎外感がある。車いすでは使いづらい環境がある。④
- ・差別は思いやり優しさと関係なく、習慣が差別につながっていると感じた。④
- ・行動にした時に差別が生じてても、しょうがないと思っていた。④
- ・差別＝人権をなくしている、の自覚が大切だと驚いた。考えたことがなかった。⑤
- ・差別はなぜいけないのか。本当にいろいろと考えさせられる話だった。⑤

権利【シール 1】

- ・権利について意識したことがなかった。④
- ・言葉として印象的。選べることが重要。④
- ・バリアフリーは思いやりではなく、尊厳や権利が当たり前のことだと感じた。④

思いやり、やさしさ

■「福祉」「心のバリアフリー」アンケート

- ・「福祉」は「思いやり」のイメージだった。②
- ・自分がアンケートに回答したら、お話の結果と同じような答をしたのではと思った。②

■「思いやり・やさしさ」とはどんなこと？

- ・「思いやり」とは、手を差し伸べたりすることだと思う。それをすると心があたたかくなる。ちょっとした行動で人は救われると思う。③

・「思いやり」は「尊厳」と対なのか。「思いやり」はサポートする側の視点だが、思いやりによりサポートを受ける側も嬉しいと感じるので。そういう意味で思いやりは必要。③

- ・思いやりは気持ちの問題で、行動ではないとのことだが、一方で行動すること（手を差し伸べること）だと言っている人もいて興味深い。正解はなく、人によって解釈が違う。③
- ・「思いやり・やさしさ」は、福祉や心のバリアフリーとは別の物という話が印象的。⑤
- ・杖を使用しているが、バスでは9割の人が席を譲ってくれる。権利主張では席は譲ってくれない、「やさしさ」から譲ってくれている。⑥
- ・日本の教育のミスリードがあるのかも。⑤

UD

■ UD とは？

- ・UDについて、全体のことを知りたい。①
- ・誰のためのユニバーサルデザインなのか、どうやって解決するか？②
- ・「UD」と略して示すと難しく感じる。②
- ・建築の仕事をしていて、いつも気にしているがなかなか対応できない。②
- ・UDの入口やベストな伝え方が分からない。②

■ UD トーク

- ・最初は聴覚障害者のためのツールとして生まれたと思うが、今日初めて見て、自分が聞き逃した数字などを字幕で確認できて便利。誰もが便利なのがUDだと気づかされた。②

正しい情報を伝える【シール 1】

- ・UDについての正しい情報が伝わっていないので、伝えるように努力する必要がある。④

well-being・welfare【シール 1】

- ・well-beingは人は違うことを認め個人の幸せを求めコミュニケーションをとりあうこと。①
- ・福祉というとwelfareで、国や行政任せになってしまいがちだと改めて感じた。②

コミュニケーション【シール 2】

■トライし続けることが大切

- ・「車いすを持ち上げますか？」と声をかけた時に「大丈夫」と怒られるように言われたことがあったが、どうすれば良かったのか？トライし続けることは一番難易度が高い。①
- ・どう声かけをして良いかわからないが、アプローチし続けることが大切なのだろう。①
- ・建設的な対話や現場の声を聞くことが大切。②
- ・障害にも色々なレベルや違いがあるので、声かけの仕方が難しいと感じた。④
- ・障害者は「わかってくれ」と、健常者は「何をしたいかわからない」と思っていて、圧倒的にコミュニケーションが足りない。今自分ができなくても他の人に頼めばいいので「できなかったらどうしよう」ではなく、コミュニケーションを増やしていきたい。⑥
- ・状況に応じた対応が「心のバリアフリー」。⑥

■難しく考えずに行動

- ・自転車に乗っていたら、「店まで押して欲しい」と外国人の車いす使用者にジェスチャー混じりで声をかけられて、話しながら店まで行ったことがある（高校生）。⑥

■関係性・サービス

- ・やってもらうこと、やってあげること、人との当たり前の関係。⑤
- ・ただ関わればよいだけなのに、知らないうちにサービスになってしまうことがある。⑤
- ・福祉とは、「やってあげる人」「やってもらう人」がでしてしまうのか？福祉のイメージと、憲法上とのGAPはなぜ生まれるのかを考えた。⑤
- ・障害のある人はサポートを受ける人なので、ここで何を話していいかわからない。③

広域支援相談員【シール3】

■相談員制度

- ・障害があっても、支援側に回ることができると思う。①
- ・左半身が麻痺してからも役立ちたいと学んでいるが、人との対応が難しいことがあり仕事につながらなかった。やむを得ないと感じていたが、今日の話も聞いて障害を理由とした差別だったかもしれないと気づいた。相談員制度を知っていれば相談してみたかった。①
- ・障害が原因で差別を受けている人がいるかもしれない。支援に繋がりたい。①

■相談窓口

- ・相談窓口の周知が足りないと感じているが、改めてもっと知らせねばと思う。②

■制度や人材

- ・障害者の対応が進んできている一方、東京都などの制度は融通が利かないことがある。②
- ・ヘルパーはまだまだ人材不足。単価が低いことは問題で、質も良くなならないし増えない。⑤
- ・重度の知的や自閉症の方のお出かけの際にヘルパーは必須だが、困りごとがとにかく多い。⑤
- ・車いすの人が電車に乗る時、駅に電話をすることで始まる。すぐに対応してくれず駅で待つこともある。大変なことを知ってほしい。⑤
- ・細かく法律を作ってほしい。⑤
- ・パーキングパーミットが東京は進んでいないのはなぜ？⑤

まちづくり

■まちの中の変なルール

- ・エスカレーターは、東京では右側を開けるが、左半身麻痺の自分は使えなくて困っている。⑥
- ・車いす用駐車場をそうではない人が使用する問題解決は、全部車いす用駐車場にする。⑥
- 経済効率もあり全部はできない。限られた資源をだれが使うかを考えることも大事。⑥

■地域のこと

- ・有明地区には行政施設が少ない（子ども支援、スポーツクラブなど）⑤
- ・都の港湾局や江東区の行政施設を増やす。⑤
- ・有明と亀戸でも雰囲気が違うが、古い地域は大変。車いすの方が入りづらい所が多い。⑤
- ・昔店探しをした際、20軒ほど断られた。⑤
- ・建設時からバリアフリーを考えてほしい。最近の学校には当初からエレベーターが設置されるようになった。④

■私たちにできること・行動・持続

- ・意識の持続性。①
- ・知らないことがたくさんあった。障害者の意見も聞いた。これまで電車などで席をゆずる勇気がなかったが行動していきたい（高校生）。⑥

■無関心層への対応

- ・ワークショップに来ない人に知ってもらうのは難しい。どんな人なのか？なぜ興味をもたないのかを知らないと、伝えることも難しい。⑥